

薬学部の感染症対策について

■ 新型コロナウイルス感染症対策について



分子創薬化学分野 助教

中尾 允泰

Nakao Michiyasu

令 和2年度は新型コロナウイルス感染症とともにスタートし、11月現在で世界の感染者は5000万人以上となり、日本国内においても第3波の感染拡大が懸念されている状況で

す。徳島大学薬学部でも、新年度の開始から Teams や Zoom などを利用した遠隔講義を中心に、限られた一部の講義や実習についてはソーシャルディスタンスを確保した対面での実施など、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した教育・研究活動がなされてきました。本コラムでは、分子創薬化学分野における新型コロナウイルス感染症対策について紹介させていただきます。まず、基本的なことですが、スタッフ、学生全員がマスクを着用し、こまめな手洗い・アルコール消毒を心がけています。学生は、体調に問題がない（発熱、咳などが無い）ことを確認して登校し、研究室の入り口にある「毎日の健康状態チェック表」にその日の体温と体調を記入し、そのチェック表はスタッフが管理・保存しています。また、1日2回、研究室メンバ-

が共通で接触する場所（ドアノブ、パソコンのキーボード・マウス、冷蔵庫・電子レンジ・試薬庫・乾燥機などの取手、椅子の背もたれ、照明や電子天秤のスイッチ）をアルコール消毒しています。気温が下がってきましたが、1日数回、5分程度窓を開けて換気をして新鮮な空気を取り入れています。学生の実験台やデスクの間にはパーティションを設置し、隣り合う学生間の接触を避け、密にならないように配慮しています。さらに、BCP レベルが高いときには、自宅待機の学生からも毎日の体調確認メールをスタッフに送信してもらうことで学生の健康状態の確認に努めています。新型コロナウイルス感染症の終息にはまだ時間がかかりそうですが、引き続き各自がしっかりと対策を行いコロナ禍を乗り越えていければと思います。

コロナ禍の学生生活について

■ オンライン授業を受講して



薬学科1年

新居 千夏

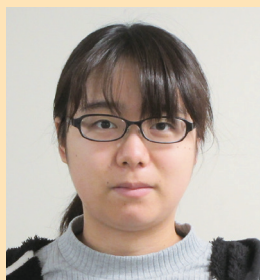
Nii Chinatsu

徳島大学に入学して半年以上がたちました。前期を振り返ってみて、今までにない様々な経験ができたと感じています。大学の講義での学びもさることながら、特に今年らしい学びは、パソコンで受講するオンライン授業だと思います。初めのほうは、初めての授業方法に不安でしたが、現在は慣れて、後期のオンライン授業は前期よりも落ち着いて受講できています。

オンライン授業は学生が密にならず感染拡大を防止する有効な手立てだと

感じます。また、授業間の移動がないので時間に余裕ができることもよい点だと感じます。しかし、先生や受講している生徒との直接的な交流のない授業は少し心細く思いました。今年は感染拡大防止のために予定されていた様々な行事がなくなり少し残念です。感染防止のためなら仕方がないとは思いますが、感染が収束し、友人とともに毎日対面授業に出席したり行事に参加したりできる日が早く来てほしいと感じます。

■ コロナ禍における学生生活について



薬学科1年

枇杷谷 紗希

Biwatani Saki

入学してからの半年間は本当にあっという間でした。はじめは慣れない大学生活やレポート課題、コロナ禍の生活様式など、たくさんの変化があっただけで大変だったのを覚えています。登校禁止期間以外の講義は、遠隔授業と対面授業が組み合わせられています。遠隔授業では、ZOOM や teams を用いたりアルタイムでの講義や、オンデマンド講義などが実施されています。オンラインでグループディスカッションをする講義もあります。登校が可能になっ

てからは、週に数回あった対面講義を通して同級生と知り合うことができました。そのおかげで、自宅で過ごしているときも LINE でのやり取りなどで情報交換でき、様々な不安を解消することができました。一人で遠隔授業を受けていた時は不安でいっぱいだったので、同級生と知り合えたことはとても大きかったです。コロナ禍の学生生活では行事や交流が制限され、残念に感じることも多くありますが、今できることをして日々を過ごしています。